

第12回バトラー研究会のお知らせ



科学研究費「基盤研究(C)」(研究課題番号19K01571 代表者:有江大介)による研究集会

18世紀ブリテン思想史と社会的影響力の両面において重要な役割を果たしながらも、今日、忘れられた神学者、思想家と言われている Joseph Butler (1692-1752) を、ふさわしい位置に復活させようというのが本研究プロジェクトの中心的課題です。共同研究の成果を日本語だけでなく英語でも出版することを目指しています。

今回の研究会(通算第12回)では、京都大大学院・山二滉大氏の研究発表を基にバトラーの心理学的利己主義批判の議論を検討します。

日時: 2021年9月19日(日) 14:00-17:30

方法: Zoom 会議により開催(ホスト: 松本哲人・北海道教育大・研究分担者)

・トピック(会議名): 第12回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布。

研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下にある「参加申込書」に記入して
開催日前日(2021年9月18日・土)までに送信 してください。

<https://forms.gle/5boDDjX21WX5bQ8ZA>

報告: 山二滉大氏(京都大学大学院)

「ジョゼフ・バトラーにおける心理学的利己主義批判について」

ジョゼフ・バトラーは18世紀におけるイングランドの哲学者である。彼は『説教集』(*Fifteen Sermons Preached at the Rolls Chapel*, 1726)において独自の良心論を展開した。

『説教集』におけるバトラーの功績は次の二つの事柄に集約される。第一に、良心論を展開することで独自の道徳理論を提示したこと。第二に、人間本性の原理を提示する際に心理学的利己主義(psychological egoism)批判を展開したことである。本報告では後者、つまり心理学的利己主義批判に注目することにしたい。というのも、この批判は人間本性を説明する際の足がかりとして展開されており、それを検討することでバトラーにおける人間本性、ひいては彼の良心論をより鮮明に理解できる可能性があるためである。したがって、本報告の目的はバトラーの心理学的利己主義批判を紹介し、彼の批判がどこまで説得力があるものなのかを明らかにすることである。

——プログラム——(司会: 有江大介)

14:00-14:15 本日のプログラムの説明、並びに参加者の自己紹介

14:15-14:20 発表者紹介

14:20-15:20 報告: 「ジョゼフ・バトラーにおける心理学的利己主義批判について」(山二滉大)

15:20-15:50 質疑

(第12回研究会はここで終了)

15:50-16:00 休憩

16:00-17:00 研究会メンバー相互の意見交換と事務連絡

(1) モスナー本の翻訳権について

(2) Springer への企画書について